

年 組 名前:



間伐したヒノキを触る児童
市川三郷町山保

市川東小が学校林整備

市川東小(市川三郷町山保)は隣接地の山林に学校林を整備し、児童の環境学習に活用している。間伐や観察など山林での実体験を通して自然環境への関心を高める狙い。石川明子校長は「五感で自然を感じることで学びを深めてほしい」と話している。

〈山本就己〉

環境学習活用へ隣接地に 自然観察、間伐作業も

環境学習は10月下旬からスタート。11月29日には峡南森林組合の望月隆参事がチェーンソーでヒノキに切れ目を入れ、児童10人らは木をロープ

石川校長によると、立沢正二前校長が「山に囲まれた環境を生かした特色ある教育環境がでないか」と県や峡南森林組合に提案。本年度に赴任した石川校長が構想を引き継ぎ、県峡南森林環境事務所や峡南森林組合の協力で、学校に隣接する私有林の地権者から許可を得て、10月に観察路を整備した。町内で学校林を整備しているのは同校のみという。

でくくって引き倒す間伐作業に挑戦した。望月参事からは「間伐で木と木の間隔を空けることで日光が当たりやすくなり、樹木の保全につながる」と説明を受けた。

切り株を実際に手で触ったり、においもかいだりした6年の中川原廉心さんは「木を切る時の工夫が勉強になった。木の運搬方法やみんなの手に渡るまでの流れも知りたい」と話した。

市川東小は今後、キノコの植菌やノコギリを使った間伐、鳥の巣箱設置、木工玩具の製作などを検討している。石川校長は「学校の隣に山林があるので気軽に足を運べる。教科書に書いてあることを自然の中で体験し、一層関心を深めてほしい」と話した。

(2022年12月10日付 山梨日日新聞 26面)

問1

市川東小の児童が、学校林の

整備をすることの狙いを

教えてください。

.....
.....
.....
.....

問2

市川東小の児童10人は、どのような作業に挑戦しましたか。

.....
.....

問3

今後は、何がしたいと検討していますか。4つ教えてください。

.....
.....
.....
.....